東海教区ニュース

No.78
2024.12

すべては神のうちで

教区長　末竹十大

「すべてのものは、神から出て、神によって保たれ、神に向かっているのです。栄光が神に永遠にありますように、アーメン。」（ローマ11:36）

このみことばは使徒パウロの言葉です。原文では「すべてのものは、彼から、彼を通して、彼へ」となっています。「彼」とは「神」のことですから、すべてのものは神のうちで起こっているということです。神から出て、神に向かうすべてのものは、神を通って進んでいるのですが、その始まりは「神から」起こる神の出来事なのです。これは起源を表す前置詞ですから、すべてのものは神を起源として存在しているということです。

わたしたちはこの起源を忘れて、自分が良いと思える目標を設定します。もちろん、誰でも自分の目標を持っているでしょう。しかし、その目標は最終的に「神へ」ということに帰結しなければならないことなのです。これを忘れてしまうと、自分が設定した目標がすべてになってしまいます。そして、わたしたちは神を忘れてしまうのです。

イザヤ、エレミヤ、エゼキエル、ホセア、ヨエル、ゼカリヤ、マラキなど旧約の預言者たちは、神ヤーウェが「立ち帰れ」と民に呼びかける言葉をたびたび預言しています。「立ち帰る」というヘブライ語はシューブと言いますが、この言葉は「向きを変える」こと、方向転換を意味しますので、向かっていた方向とは反対の方向に向きを変えて、神の許に「立ち帰る」ようにと神ヤーウェは語るのです。それは、はじめに戻ることです。

「初心を忘れるな」と言いますが、わたしたちは最初に与えられた心を忘れてしまうものです。最初に神を信頼する心を起こされて始めたのに、行っているうちに神のお働きに与っていたことを忘れて、自分が上手く計画したからこのようになったのだと思い始めます。そして、最初の心を忘れてしまうのです。次第に、人間的で自己中心的な心に支配されてしまいます。

そのようなわたしたちが礼拝を守るのは、最初の心を忘れないためです。もちろん、わたしたちが礼拝を守るのではなく、神さまがわたしたちを礼拝に招いてくださって、わたしたちが出てきたところである神さまの許に何があるのかを思い起こさせてくださり、送り出してくださるのです。礼拝から始まって、この世に出て行き、礼拝に戻っていく。これが、わたしたちキリスト者の生です。これを「礼拝から、礼拝を通して、礼拝へ」と理解すると、パウロの言葉とも一致します。礼拝は「神の奉仕」（Gottesdienst）です。神がわたしたちに仕えてくださったようにこの世に仕えることが、礼拝を生きることです。

東海教区の各教会の礼拝が「神の奉仕」として整えられ、神の出来事が始まる器となっていきますように、祝福を祈ります。

ただ、神にのみ栄光がありますように。

新任教職のご紹介

東海教区へようこそ　～歓迎の言葉～

東海地域教師会長　徳弘浩隆

4月からお二人をお迎えできたことを、感謝し、歓迎します。それぞれの経験や賜物を持ち寄り、私たち教師集団の賜物も豊かになります。それぞれが違い、各自得意分野や課題もある私達です。共に喜び、共に泣き、時に議論をし、諭し教え合い、ゆるし合い助け合い、互いの牧師となり合う事もあるでしょう。無理をしすぎず、自分の人生も大切にし、永く神と人に仕えましょう。よろしくお願いいたします。

清水教会・小鹿教会牧師

笠井春子

この春、神学校を卒業し、主の導きのうちに小鹿教会と清水教会での働きに遣わされてまいりました。

私は、生後半年のときに東京の武蔵野教会で故徳善義和先生から小児洗礼を受け、その後、ルーテル教会の牧師であった父の赴任先である福岡県の二日市教会、聖ペテロ教会に移りました。5歳の時に父が召天し、その後は田園調布教会で育てていただきました。

さて、静岡に赴任して半年が過ぎました。二つの教会の信徒の皆さんに助けられ、支えられて歩んでおります。

日曜日は朝9時から清水教会、11時から小鹿教会での礼拝を捧げています。公共の交通機関を利用して小鹿の牧師館から清水に行きます。朝7時に家を出て、静鉄バス、静鉄電車に乗り、車内で景色や人の様子をぼんやりとながめて地域の様子を知ったり、若い人たちの会話を耳にして流行りのものを知ったりするのは楽しいものです。地域と言えば、教会からそう遠くない場所にミッションスクールがあり、先日、葵区の学校に招かれて生徒さんとの交流のために訪問しました。また、清水区にあるミッションスクールからは理事長先生が教会に来られて、学校に見学にいらしてくだされば ご案内しますと仰っていただきました。私自身もミッションスクールに通い、毎朝の礼拝で信仰が養われましたので、礼拝に出席されている生徒さんたちとも交わり、繋がりを大切にしていきたいと思っています。

教区の皆様のお祈りとお支えに感謝申し上げます。

宣教のために遣わされたこの地で、主と共に歩んでいきたいと思っています。

みのり教会・岡崎教会牧師

三浦慎里子

この春神学校を卒業し、みのり教会と岡崎教会に遣わされました三浦慎里子と申します。出身教会は熊本県にある室園教会、神学校在学中の実習教会は、保谷教会、むさしの教会、札幌教会、東京教会です。神学校に入学する前は九州ルーテル学院大学の職員として働いていました。映画鑑賞や朗読をすること、美味しいものを食べることが趣味です。愛知県に移り住んでから半年が経ちました。土地や人にもだいぶ慣れてきたように感じます。大学で言語学を学んでいたこともあり、様々な言語の音を聞いて独特な響きを楽しむのが好きです。「～だに」や「～じゃん」など、三河弁の響きもとても可愛らしく魅力的ですね。牧師としては初めてのことばかりですから、思い描いていたような働きができない自分が不甲斐なく、ため息をつく日もあります。しかし、教会の皆さんや教区の先輩牧師の皆さんからお支えやあたたかい励ましの言葉をいただき、挑戦の機会が与えられていることは、幸いなことだと感謝しています。みことばに真摯に向き合い、出会いを大切にし、遣わされた教会の皆さんと共に歩んでいく日々の中に、神様の導きがあることを信じています。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

教区の諸活動の報告

東海地域教師会　教師会の諸課題

東海地域教師会長　徳弘浩隆

5月に全国教師会退修会が開かれ、「オンライン礼拝」「教師の働き方について」の発表と意見交換、育児・介護休業制度の必要性やそれに伴う諸規定を整える諸課題も議論されました。牧師の働きの意味合いと、法的要請もある中での位置付について経験も併せて話し合われ、必要なことだとの前向きな方向となりました。

東海地域教師会は、10月11日に教師会総会をオンラインで開催。テーマは以前決められていた自己研鑽の部会について。各自最近の取組み、課題なども共有し、インスパイヤされたり共感をする時間でした。兼任も多くなり部会活動も難しい状況で、各自や有志での取り組みと、総会や退修会などでの共有と確認されました。忙しく現場で孤軍奮闘する中で、牧師の牧師として、互いに祈りあい支えあう集団の大切さを感じ、また感謝しています。

教区女性会　大垣教会での講演会を終えて

教区女性会会長　柴田恵子

皆さんは、うずらを育てたことがありますか？見たことがありますか？触ったことがありますか？では、うずらの玉子を食べたことはありますか？私は「Yes、はい」です。

私とうずらの物語は、今から約50年以上前のこと。小学生の時、突然、我が家の玄関にやってきました。私は驚き、目は輝き、知らない生物との出逢いに心躍ったことを想い出します。その小さないのちが登場してから、我が家の朝は賑やかになりました。小さな玉子を誰がいただく、か。たった1つの宝物。そんな幸せの日々が何日も続きました。

この秋、岐阜県大垣の地に立ちました。大垣教会で講演会を開くことが実現したからです。

うずらの発祥地、あゆみの家。懐かしく優しい風景、そして、我が家にうずらをくださったT夫妻との再会。私は小さな「うずらのいのち」に出逢い、いのちの愛おしさ、大切さを学びました。そして今もその延長上に私の物語、信仰生活は続いています。神さまありがとう。

教区青年・外国メンバー　夏のデイキャンプ

教区青年担当　渡邉克博

2024年の東海教区の青年会活動は、偶数月に開催してきました。2月、4月、6月、10月はオンラインミーティング、8月は外国メンバーを交えて対面でデイキャンプを開催しました。

夏のデイキャンプは新霊山教会でのワークキャンプでした。礼拝堂で恵みに溢れる開会礼拝を守り、牧師館の前の手入れが行き届いていなかった竹林の竹を切って運び出しました。その後はお楽しみのバーベキューとレクリエーションの時間を持ちました。皆で楽しい夏の一日を過ごしました。なお、12月にはクリスマスの礼拝と祝会を予定しています。青年メンバーの減少に伴い、10月をもってオンラインでの青年会のミーティングは休止して、2025年は8月のデイキャンプと12月のクリスマス礼拝と祝会の対面での活動のみにする予定です。私たちの教区で次世代への信仰継承と外国メンバーのための働きが守られますようこれからもお祈りをお願いします。

「ふくしむらフォーラム」発足

社会・奉仕部長　光延 博

福祉村への支援や繋がりのための委員会を「ふくしむらフォーラム」と改め、第一回目の会合を7月30日に行いました。デンマーク牧場福祉会、日本キリスト道友会と東海教区から10名のメンバーで構成されています。福祉村の現況のご報告を聞き、どのような支援や交流ができるかについて話し合っています。皆様はこれまでそれぞれの期間でそれぞれのお関わりで福祉村の皆さんと繋がりを持ってこられたことと思います。これからも福祉村で過ごすこどもたちからご高齢の方々までお一人おひとりのことを覚えてお祈りくださいますように、ご支援くださいますように今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

三名の先生をお送りして・・・

「神の働きに仕える」

教区長　末竹十大

2024年10月、三人の牧師を次々に天にお送りすることになりました。川口誠牧師（10月22日）、長尾博吉牧師（10月23日）、藤井邦昭牧師（10月30日）、みなさま東海教区でお働きくださった牧師たちです。

三人の牧師に与えられた賜物は違います。川口牧師はヘブライ語を極めようとお働きくださり、長尾牧師は教会運営を整えるために、藤井邦昭牧師は礼拝を整えるためにお働きくださいました。

信徒のみなさんにとっては、自分のイメージする牧師像とは違うと思う牧師に出会うこともあるでしょう。しかし、その牧師を働きへと召してくだったお方は唯一の神なのです。神さまは、一人ひとりを必要なところに遣わしてくださり、必要な働きをなさせてくださいました。

三人の先生方の賜物を振り返ってみますと、神さまの宣教の働きが分かります。「聖書」、「組織」、「礼拝」です。わたしたち東海教区の各教会が、みことばに聴き従う民として、教会組織が整えられ、この世へと派遣される礼拝を生きることが神の宣教です。そのために神さまが用いられた三人の先生方のお働きに感謝いたします。

これからの東海教区が大切にしなければならないことを、三人の牧師たちの召天を通して、神さまはお示しくださったのだと思います。それぞれのご遺族の上に、天来の慰めが豊かに注がれますように。

ご葬儀の様子(上より川口牧師、長尾牧師、藤井邦昭牧師)

第61期教区常議員会の自己紹介

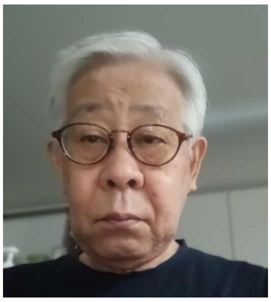
教区長　末竹十大

　これまで三つの教会に仕えてきました。どこにおいても建築に携わることになり、最初と最後は合同一本化にもなりました。どちらも三つが一つになる合同でした。何だか、神の必然を感じます。そうなるようになっていたのだと。最初の任地で悩んでいたときに聞いた神の言葉「わたしがそれを置いた」がその後のわたしの在り方を決めているように思います。最後まで、置かれた神の意志に仕える者でありたいと思います。

書記　渡邉克博

　これまで2020年の春から4年間教区の宣教部長の働きが与えられ、常議員会の先生方に助けられながら、何とか職責を全うすることができ、しばらくは休もうと考えていましたら、この春から書記となりました。

「書記」を英語に訳すと”secretary”と訳されたりします。日本語で「秘書」とも訳される言葉です。教区の事務的な働きを担う存在の一人であると理解しています。教区行政のために裏方になってよい働きができるよう祈りつつ、与えられた職務に仕えて参りたいと思います。



会計　佐藤祥一

　岐阜教会で５０年強の信仰生活を送っていますが、あまり熱心なクリスチャンではないと思っています、東海教区内で数少ない信徒礼拝を導入している教会であり、司式・説教を悩みながら担当しております。

　教区のお仕事としては過去に何度か教区常議員を経験してきましたが、会計は今回が初めての任です。戸惑いの中、事務所長及び前任会計に助けられてここまで来ていると感じます。

　自分自身でも不足感が有ると感じていますが、これからも宜しくお願い致します。

宣教部長　後藤由起

　宣教部長の後藤由起です。名古屋めぐみ教会と知多教会牧師、箱舟保育園チャプレン、そして日本ルーテル神学校で宣教学と旧約科目を担当しています。教会が直面している課題はたくさんありますが、宣教を導かれる聖霊のご計画に信頼したいと思います。子育て真っ最中で小一の壁なども実感中です。いろいろなことに興味を持つ息子につられて自分も新しい知識を得ることが楽しみです。休みの日は息子とのんびり乗り鉄をしたいです。

宣教部長　石川吏志

　信徒宣教部長の石川です。ご存知かと思いますが、教区事務所の事務長と二足の草鞋を履いています。超速で守備範囲の広い後藤由起宣教部長の後を、部員の笠井、三浦の両先生と櫻井姉に背中を押してもらいながら、息を切らせてついていっております。

　現在、宣教部では、来年11月3日に名古屋めぐみ教会で予定されている、「東海信徒フォーラム」（旧信徒大会）に向けた準備が進められています。詳細の発表まで、もうしばらくお待ちください。

社会・奉仕部長

光延 博

みつのぶ　ひろしと申します。「みつのぶです」と言うと「苗字は？」と聞かれますが、苗字がみつのぶで、名前は「ヒロシです」。ちっご（筑後）出身とです。常議員がんばります。失敗が多いです。好きなものは、お香などの煙、炭酸系の飲み物、若い頃はロックでしたが最近は交響曲で癒され力づけられています。牧師16年生。『15の好奇心』（ハウンド・ドッグ）を昨年カラオケで歌ったばかりです。どうぞよろしくお願いいたします。

教区常議員会ニュース

●2024年3月の教区総会の報告

2024年3月20日(水・祝)に浜松教会で教区総会が開催されました。教区長を始めとしてすべての常議員会メンバーの改選が行われました。選出されたメンバーの自己紹介は本号に掲載しました。任期は2026年3月の教区総会までとなります。例年の議案に加えて東海教区の特別協力金制度や、信徒大会と伝道セミナーを一つに集約して2年に一度開催する東海信徒フォーラムも議決しました。

●初回の東海信徒フォーラムについて

2024年3月の総会決議を受けて2025年11月3日(月・祝)に初回の東海信徒フォーラムを名古屋めぐみ教会で開催予定です。現在、教区宣教部で開催のための準備をしています。

●教区常議員会

これまでの常議員会では、その都度必要な議案の審議をしていますが、特に今期は「ふくしむらフォーラム」の設置が決議されています。これまで主に福祉村募金のために教区が福祉村委員会を設置していましたが、2023年をもって福祉村募金を終えることとなり、福祉村委員会はその役割を終えることとなりました。とはいえ、デンマーク牧場で宣教や諸事業に関わる三法人、宗教法人日本福音ルーテル教会東海教区と社会福祉法人デンマーク牧場福祉会と宗教法人道友会での連携はこれからも大切ですから、教区として三つの法人のメンバーから構成されるふくしむらフォーラムを設置することとなりました。

また、教区宣教方策について検討を続けています。現在教区には10名の現役教職がいますが、今後10年で7～8名に減少することが予想されます。そのために教会の合同やインターネットを活用した礼拝も必要となってきます。教会でインターネット礼拝を行う設備のための補助金についても2025年3月の総会提案に向けて検討をしています。

●伝道支援金の申請状況について

2024年の伝道支援金はすでに4教会より申請があり承認されました。岐阜教会では劇団を招いての特別伝道集会、高蔵寺教会ではハープ奏者を招いての特別伝道集会、栄光教会ではフルート奏者を招いてのレクチャー・コンサート、掛川菊川教会では声楽家を招いてのクリスマス・コンサートが企画されました。それぞれの教会で伝道活動の活性化のためにご活用いただけたらと思います。

●2025年3月の教区総会

次回の教区総会は2025年3月20日(木・祝)に名古屋めぐみ教会で開催します。事前に担当の方には教区総会の資料の提出を依頼します。期日内の提出をお願いします。

編集後記

東海教区ニュースの前号の発行を調べたら2020年3月発行の第77号でした。「ぶどうの欄」は常議員会で議論して今号から掲載しないこととなりました。新たな装いで教区ニュースを継続していきますが今後ともご愛読をお願いします。(W)

発行日：2024年12月1日
発　行：日本福音ルーテル教会
　　　　東海教区常議員会
事務所：〒457-0006 名古屋市南区鳥栖1-15-32
　　　　TEL 052(823)8612
発行者：末竹十大　編集担当：渡邉克博